

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871100347
法人名	有限会社 くまた
事業所名	グループホーム くまた
所在地	愛媛県 松山市 土手内 5 2 - 1
自己評価作成日	平成26年10月16日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

職員全員が笑顔で挨拶を実践している
地域行事への参加(祭り・運動会等)や夕涼み会の開催をすることによって地域との交流をはかっている
ゴミステーションの清掃等近隣地域に貢献している。
職員同士の親睦を深め、食事会等も積極的に実施し離職者も少ない

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

- 事業所で行う誕生日会にはご家族を招待しており、ご家族は花束やプレゼントを持って来られ、中には和食や活き作り等を料理して、みなに振舞ってくださる息子さんもあり、ご本人はいつも涙されるようだ。居間には「息子から母の日珍花届きける」という利用者自作の短冊が飾られていた。利用者同士が馴染みの関係となり、居室を訪問し合ったり健康を気遣う等するような場面もあり、調査訪問時には、互いを「～ちゃん」と呼び合う様子も見られた。
- 毎月のユニット会議、職員会に加えて、今年度から勉強会を設け、さらなる職員の質の向上を目指して取り組まれている。勉強会では「接遇や身だしなみ」「ユマニチュード」「排泄支援」等、介護の基本に立ち返りながら、互いに意見交換して学びを重ねておられる。職員は「マンネリに陥らないよう、初心に戻って学ぶことができる」と話しておられた。法人代表者は夜勤も担当する等、現場で職員の意見や提案を直接聞く機会が多い。又、職員の福利厚生等にも努めており、5年以上継続勤務している職員が半数以上を占めている。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

有限会社 くまた

(ユニット名)

2F

記入者(管理者)

氏 名

久萬田 真一

評価完了日

平成26年 10月 16日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○ 理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 管理者と職員は地域との関係をつなげ、その人らしく暮らせるような理念を共有し、日々ケアに取り入れている。	
			(外部評価) 開設時に作成された事業所理念「まごころ」は、季刊誌の名称にもされている。法人代表者(管理者)と職員は「笑顔で、優しい心をもって利用者に接する」よう、常に心に留めて日々のケアに取り組まれており、ユニット会議や職員会は、理念に沿って支援できているか話し合う機会となっている。	
2	2	○ 事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 町内の会合(区長会、サポート大町等)や地域のイベント(大祭、市民運動会、防災訓練等)に積極的に参加し、近隣住民と十分話し合う機会をもっている。 ミカンの販売をすることで地域の方に目を向けて貰っている年末に近所の交番にみかんを持参し表敬訪問を行うことが恒例となっている。	
			(外部評価) 法人代表者は地元の方であり、地区の様々な活動に尽力し、地域との関係作りに積極的に取り組まれている。近隣の北条高校の「RC(青少年赤十字)の生徒達が毎月のように来られて、ゲーム等と一緒に過ごされており、利用者は心待ちにされている。又、定期的に幼稚園児や小学生、中学生の訪問もある。中学生の福祉体験実習では、利用者の車椅子を押して浜辺まで散歩したり、リフト浴に乗ってみる等されている。事業所恒例の「夕涼み会」は、利用者のご家族、近隣の方達の交流の場となるよう取り組まれており、利用者も、おはぎを丸めたり、おでん等の下ごしらえに精を出されている。又、地域の折々の祭りや行事、運動会、愛媛マラソンの応援等には、利用者も参加できるように支援されている。地域の方に事業所に親しみを持ってもらえるよう、事業所前では無人のみかん販売をしている。	
3		○ 事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ホームに相談に来られた方に対してアドバイスをを行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議にてホームの近況報告やイベントの結果等をスライドにて報告。区長さんや民生委員さんと参加者全員で話し合い、問題点について意見交換を図り、サービス向上に活かしている。	
5	4	○ 市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			会議では、パソコンを使用して事業所の取り組みや利用者の日頃の様子、行事風景等を具体的に報告されている。年度初めの会議時には、年間の事業・行事計画を配布しているが、ご家族から「2ヶ月間の行事報告や行事予定も配布してほしい」との意見があり、次の会から実施された。民生委員からは「皆さんがとても楽しそうに生活されており、グループホームの印象が変わった」という声もいただいた。会議には、毎回、家族会会長と副会長、家族代表と3名のご家族が参加しており、家族代表は、利用者とペアで出席できるよう配慮されている。会議内容は家族会でも報告されている。	
6	5	○ 身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束の研修会に参加し、職員会で拘束についての職員の共通認識をはかり、日々積極的に取り組んでいる。	
			(外部評価)	
			身体拘束について外部研修で学んだことを職員間で共有しており、玄関の施錠やベッド柵等、身体拘束をしないケアに取り組まれている。ベッドの足元に、センサーマットを置いて見守りながら支援しているケースが複数ある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 管理者と職員は高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所で虐待がみすごされることがないように注意を払い、防止につとめている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者は成年後見制度の研修に参加し、職員会等で報告している。 必要と思われるご家族への助言を行っている。 職員も順番で研修に参加している	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時に家族、利用者を交えて説明している。 医療連携体制等も同意を得るようにしている。 疑問点等随時詳しく説明し、了解を得るようにしている。 改定の際には各個人に説明、家族会にて議題にあげ了解を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃から自由に話せるような雰囲気作りを心がけ、家族の意見、要望をミーティングで話し合い反映させている。 年に一回家族会でアンケートを実施。運営に活かしている また、運営推進会に参加していただき意見交換をはかっている。 (外部評価) 季刊紙「まごころ」を通じて、ご家族に利用者の暮らしの風景等をお知らせしている。年1回、敬老会と併せて家族会を開催しており、ほとんどのご家族が出席されている。家族会時に実施する家族アンケートは、事業所のサービスについて具体的に意見をうかがえるよう項目のつくり方を工夫しており、ご家族からは「安心して任せておけるホームである」「入居して、本人の笑顔が増えた」等、感謝の言葉が多いようだ。「スリッパを新しくしてほしい」「職員のケアに個人差がある」の意見には、それぞれに対処して取り組まれた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日頃からコミュニケーションをとり、意見を言いやすい雰囲気である。 必要に応じ、全体、個別に意見を聞き対応している。 (外部評価) 毎月のユニット会議、職員会に加えて、今年度から勉強会を設け、さらなる職員の質の向上を目指して取り組まれている。勉強会では「接遇や身だしなみ」「ユマニチュード」「排泄支援」等、介護の基本に立ち返りながら、互いに意見交換して学びを重ねておられる。職員は「マンネリに陥らないよう、初心に戻って学ぶことができている」と話しておられた。法人代表者は夜勤も担当する等、現場で職員の意見や提案を直接聞く機会が多い。又、職員の福利厚生等にも努めており、5年以上継続勤務している職員が半数以上を占めている。	法人代表者は、「開設10年の節目を越え、新たな思いでさらなる一歩を踏み出し、精進して行きたい」と話しておられた。今後もさらに、職員のスキルアップや資格取得等に向けて取り組み、事業所のさらなる質向上を目指していかれてほしい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格試験に向けた支援を行っている 運営者自身が業務につき職員と共に向上心を持てるよう助言し、職能評価を行っている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 段階に応じ全職員が受講できるよう積極的に推進している。職員会で研修報告をしていただき、全職員で情報を共有できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 他のグループホームとの相互研修にも参加。ケアの向上に努めている。 市の連絡会に参加し情報交換を行っている。 イベント等では4施設と交流がある。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 事前の面談にて生活状態を把握し、本人の日々の関わりの中で生活習慣や要望を聞き出し不安の軽減に努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の不安や要望を理解し受け止め、どのような対応ができるかよく話し合うよう努めている。 随時電話連絡をとって迅速な対応につとめている	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、本人の思いや状況等を確認し、改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す中で必要なサービスにつなげていけるよう努めている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の思いに寄り添い、根本にある苦しみや不安、喜びなどを知ること努め利用者と共に支えあえる関係を築きながら笑顔あふれる生活が送れるよう話し合っている。 共に生活をしている意識を高めるため積極的にお手伝いをお願いしている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族の思いに寄り添いながら、本人の日々の暮らしぶりの情報共有に努め、本人を共に支えていけるよう話し合っている。 ほぼ毎日利用者さんのリハビリ等に協力して下さる家族さんがおられる。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族と共に外出する機会をつくっている。 (墓参り、毛染め、食事会など) 家族や知人が自由に来訪しており、本人が大切にしてきた人達との関係が継続できるよう支援に努めている。 (外部評価) ご家族の中には、毎日足を運び利用者ご本人の脳トレを支援する方や、月に1度はご自宅に連れて帰り毛染め等をする方もいる。事業所で行う誕生日会にはご家族を招待しており、ご家族は花束やプレゼントを持って来られ、中には和食や活き作り等を料理して、みなに振舞ってくださる息子さんもあり、ご本人はいつも涙されるようだ。居間には「息子から母の日珍花届きける」という利用者自作の短冊が飾られていた。利用者同士が馴染みの関係となり、居室を訪問し合ったり健康を気遣ったりするような場面もあり、調査訪問時には、互いを「～ちゃん」と呼び合うような様子も見られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居年数が長く、利用者同士の自然なつながりが築かれている。 職員は利用者同士の関係を把握し、共に楽しい時間を過ごすことができるように努めている。 利用者さんどうして介護の連鎖ができています。	
22		○関係を断ち切らない仕組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してからの継続的な関わりはほとんどないが利用中に培った関係性を大切にしながら必要とする利用者や家族には継続的なフォローができる体制はできている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者ひとりひとりのコミュニケーションを大切にし、日々のかかわりの中で表情や言葉から思いや意思を測ったり確認するよう努めている。 積極的に思いや要望を伝えてくださる利用者さんが増えてきている。	
			(外部評価) 事業所では、利用者一人ひとりの性格や趣味、好きな食べ物等を記載した個別シートを新たに作成しており、全職員で情報共有して、1階・2階ユニット分け隔てなく支援できるよう、取り組みをすすめているところである。最期までその人らしい生活を支援できるよう、ご本人の希望の確認にも努めており、「楽に逝けたらいい。病院で注射漬けにされるのはごめんだ」という方もある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人自身の言動や家族や知人の面会時などに少しずつ聞き取り把握に努めている。 ホールに行きごとの写真を掲示することによりきっかけを作り家族との会話もふえてきている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 24時間チェック表を活用して、一人ひとりの生活リズムを把握し心身の変化に気づき、状況に応じた関わりが持てるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○ チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			日頃の関わりの中で思いや意見を聞き、反映させるようにしている。ユニット会にて意見交換やモニタリングを行っている。 家族に介護計画や介護記録を見てもらい意見交換をしている	
			(外部評価)	
			個別の介護記録をもとに、毎月、個々の状態や様子等をまとめており、利用者一人ひとりの1年間の変遷を一目で把握できるよう工夫されている。ケアマネジャーは「現在できていることを維持できるようなプラン」作成に努めておられる。入居前から、買い物がお好きだった方には、日々の事業所の食材の買出しや選別までできるよう、計画を立て支援されている。	
27		○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			個別のチェック表を作成し、心身の状況や暮らしの様子を記録し、日々のケアや介護計画に活かしている。申し送りを行い情報の共有に努めている。	
28		○ 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			家族や本人の要望や状態に応じて柔軟に対応している。利用者の心身の状態変化に応じ医療機関への受診や入院回避、早期退院の支援に努める。	
29		○ 地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			運営推進会にて地域包括支援センターや民生委員、地域の方と話をする機会を設けている。ボランティアの方にも積極的に働きかけ、交流している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。受診、往診は本人や家族の希望に応じている。必要があれば受診結果を報告、情報を共有し、理解を得てから適切な医療が受けられるよう支援している。	
			(外部評価) かかりつけ医の受診は、ほとんど職員が同行して支援されている。協力医の往診が月2回あり、毎週木曜日には訪問看護師の来訪がある。利用者個々の「看護要約」には、身体状況等を記入しており、フェイスシートや顔写真も添付して、訪問看護師と情報を共有できるよう工夫されている。さらに栄養バランスの取れた食事を提供できるよう、3年前から、毎食、法人内の介護食士がカロリー計算を行う取り組みを始めており、利用者の入院や救急搬送が減っているようだ。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 提携医療機関の訪問看護ステーションと契約し、利用者の健康管理や個々の状態に応じた支援を行っている。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 入院時には本人情報を提供し、頻繁に御見舞いに行き、安心して治療できるよう心がけている。また、病院関係者や家族とも連携を密にし、速やかな退院支援に結び付けている。2年間入院なし。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 看取りの研修に基づき、本人や家族の意向を踏まえ、家族・医師・介護職員が連携をはかり、看取りに取り組んでいる。定期的に看取りへの意向確認書にサインをいただいている可能な限り本人にも聞き取りを実施し、意思確認を行っている。	
			(外部評価) 1～2年毎に、利用者及びご家族へ看取りについての希望を書面にて確認しており、ほとんどのご家族が「事業所で最期まで過ごしたい」と希望されている。事業所では、ここ2年で2名の利用者の看取りを支援された。最後まで「口から食べて、週3回は入浴し、居間でみなと過ごす」等、これまでの日常と変わらない生活を支援しながら見送られた。夜勤がひとりで不安な職員には、他職員が手助けしてくれる等、全ての職員で支え合いながら支援された。事業所とともに看取りを支援したご家族の中には、今でも行事の手伝いに来てくださる方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 救急救命、応急手当等の勉強会に参加。 マニュアルを作成し、職員全員が素早い対応ができるようにしている。本年度も看取り事例あり。 全職員が吸引できる。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 防災士の資格取得 年に2回の消防訓練を行う。 地域の町内会の協力も得ている。 災害時の地域・職員・家族の連絡網を作成 (外部評価) 年2回避難訓練を行い、うち1回は消防署立会いのもと、地域の方も参加して実施されている。運営推進会議時には、避難訓練について報告して話し合われている。防災士の資格を有する法人代表者は、地域の消防訓練にも参加して地域とも協働されている。各居室の入り口には、防災加工を施したのれんが掛けられていた。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ユニット会時に個々のかかわり方を検討し、日々のかかわりの中でも利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底に努めている。 (外部評価) 5月の運営推進会議では、「利用者の呼称」について話し合わせ、事業所から「利用者本人が、ちゃん付けで呼んでほしいと希望され、ご家族の了承も得られた方には、ちゃん付けで呼ぶようにしている」と説明された。ご家族からは「ホームという一つのグループであるから親しみ易い呼び方でよい」、地域包括支援センターの方からは「グループホームの特性を考慮すると親しみ易い呼び方でも問題はない」との意見があった。調査訪問時、利用者から「ありがとう」とお礼を言われた職員は「どういたしまして。ありがとう」とやり取りする様子がしばしば見られた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活の中で一人ひとりの力に応じ利用者自身が決定できるよう声かけの仕方や関わりを工夫している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な一日の流れはあるが、一人ひとりの生活リズムを大 切にし、起床や食事、休憩など可能な限り個別支援を行っ ている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	(自己評価) 基本的には本人の意思に任せているが決定困難な場合に は職員が共に考えている。 行事の際等、女性には職員が化粧を施すこともある。 理容は月一回ボランティアの方が来るのを楽しみにしている 毎月毛染めに帰宅される方がいらっしゃる。 化粧品の購入支援も行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえから片付けまで利用者と共に、同じテー ブルを囲んで楽しく食事ができるよう心がけている。 BGMをかけ、雰囲気作りに努めている。 椅子等を工夫して食環境整備に努めている。 (外部評価) 利用者の希望も取り入れながら、職員が献立を立て、毎日、 職員と利用者で食材の買出しに出かけ、手作りされている。 食前には、口腔体操を利用者のおひつりが前に出て、みな で行ってられる。調査訪問時には、ご家族手製のランチョ ンマットの上に、きのこご飯等が並び、デザートには柿が添 えられ、季節感に工夫されていた。職員も利用者とともに食 卓を囲み、同じものを食べ、和やかな食事風景がみられた。 ご自身で下膳した食器をさっと水洗いしてから、洗い桶に入 れている方、数名で分担して食器を拭いている様子もみられ た。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価) 栄養バランスを考慮したメニュー作りをしている。 一人ひとりの体調と摂取量を把握し、食事の形状・量・内容・ 時間・場所など個別支援に努めている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) その必要性を認識し、本人の力に応じた口腔ケアに取り組 んでいる。 食前の口腔体操やお茶ゼリー等予防にも努めている。 必要に応じローリングブラシやクリーナーを使用している。 年に1回連携歯科医による訪問指導あり。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○ 排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、時間や習慣を把握。 トイレでの排泄を大切にしながら紙パンツ、パット、布パンツ、失禁パンツ類も本人に合わせて検討している。 オムツ使用者なし。	
			(外部評価) 24時間個別チェック表に、排泄の時間や回数等を記録して、個々の排泄傾向の把握に努めておられる。日中は、声かけしてトイレで排泄できるよう支援しており、2階ユニットでは、紙パンツを使用していた3名の方が布パンツを使用する等、排泄状況が改善したような事例がある。	
44		○ 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) お茶ゼリーなど食材の工夫や健康体操、散歩など運動によって自然排便ができるよう心がけている。 排便の困難な時は処方された下剤(内服薬・座薬)にて調整している。	
45	17	○ 入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 基本的には一日おきであるが本人の体調・要望にて柔軟に対応している。 入浴を拒む方には声かけや対応を工夫している。 ゆっくりと話しながら入浴を楽しめるよう工夫している。	
			(外部評価) 一日おきに入浴できるよう支援されている。湯船は三方から介助できるよう設置されており、利用者の状態によってはリフトを使用して湯船に浸かれるように支援しているケースもある。長湯を好む方には、時間を見計らって声かけされている。時には、奥道後の足湯を楽しめるよう支援されている。	
46		○ 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中の活動を促すことにより生活リズムを整えるよう努めている。 一人ひとりの生活習慣を理解し、環境作りに努めている。 体調に応じ、適切な休憩がとれるよう配慮している。 寝付けないときにはリビングで共に過ごしたりしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 服薬ファイルを使用している。 服薬時には本人に手渡し、確認、必要に応じ介助している。 症状の変化を詳細に記録し、医療機関とも連携をとるよう努めている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 得意分野で一人ひとりの力を発揮して貰えるよう声かけし、感謝の言葉を伝えるようにしている。 買い物やドライブ、催し事、年中行事など気晴らしや楽しみ事を支援している。 毎日買い物に同行してくださる利用者の方もいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望(買い物など)に添って外出できるよう支援している。 季節を感じられるよう折々の催しや行事に参加、家族やボランティアの方の協力を得て日帰りの外出などを楽しめたりしている。 (外部評価) 地域の催し物や、四季折々の自然や花を楽しむ機会を設ける等、外出支援に積極的に取り組まれている。お花見はご家族もお誘いして、一緒に出かけている。お墓参りや観劇等、個別の外出も職員が付き添い支援されている。ご家族に車椅子対応の事業所の車をお貸しして、利用者と一緒に出出できるよう支援しているケースもある。又、ご家族がお世話して下さっている事業所の畑では、園児達と芋ほりを楽しんだり、季節の野菜を収穫できるよう支援されている。11月には、奥道後に出かけ、菊花展や外食を楽しむ予定になっていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望者には少額を手元に持ち、要望に応じて職員と買い物に出かけたり購入してきたりする。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望時にはいつでも電話や手紙で連絡をとれるよう支援している。 遠方に住んでいる家族から毎日定期的に電話がある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			季節を感じさせる花や絵、置物を飾ったり自然の風を取り入れ、季節を肌で感じることができるよう工夫している。 利用者から台所が見えるため生活感を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(外部評価)	
			玄関前には、手入れの行き届いた花壇や植木鉢に季節の花が咲いていた。居間の壁には利用者の書や俳句、ぬり絵、高校生が届けてくれた絵等が飾られていた。毎年応募している書道展では、今年も6名程の利用者が特選や奨励賞に輝き、階段の壁に賞状が掲示されていた。調査訪問時、花が生けられた小上がりの畳スペースでは、洗濯物をたたんでいる方もみられた。又、トランプを楽しんだり、そろばんを使って計算ドリルをしている方もあった。おやつの後、2階ユニットでは、皆で歌を歌うことを続けておられ、歌唱力も向上してきているそう。歩行器を使用して、毎日歩行訓練している方は、目標の300歩を数えながら廊下を往復されていた。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			家族の写真や趣味の道具などを持ち込み、利用者が居心地よく過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(外部評価)	
			冬は床暖房で足元からあたたかい。ご家族の写真やご本人手製のパッチワークのタペストリー、自作の俳句等を飾っておられる方もある。入居してから毎年撮ったご本人の写真、年表のように並べて貼っている居室もあった。又、毎年の敬老会時に、職員から利用者にさし上げる表彰状が掲示されており、それぞれに「特訓の成果で賞」「お手伝いできたで賞」等と書かれてあった。	